

第1回 健康維持増進住宅研究委員会 議事要旨

- 1 日時： 平成19年7月18日（水）10:00～12:00
- 2 場所： 国土交通省共用会議室B（合同庁舎3号館10階）
- 3 出席者： 村上委員長、坊垣副委員長
吉野部会長、田辺部会長、小泉部会長、伊香賀部会長
岩前委員、坂部委員、坂本(功)委員、信田委員、米田委員〔五十音順〕
浅野委員(代理:藤村氏)、成川委員、村木委員(代理:村関氏)、富田委員(代理:佐藤氏)、菊池委員
坂本(努)委員、小林委員(代理:松下氏)、喜多見委員(代理:横手氏)
和泉住宅局長
オブザーバー：厚生労働省、環境省、(独)都市再生機構、(独)住宅金融支援機構、(財)ベターリビング、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター
事務局：国土交通省住宅局住宅生産課(楢橋企画専門官ほか)、(財)建築環境・省エネルギー機構、(株)野村総合研究所
- 4 議事： (1) 健康維持増進住宅の研究の背景と今後の展望について
(2) 健康維持増進住宅の研究活動の展望について
(3) フリーディスカッション
(4) 今後の進め方について
- 5 議事概要：
 - ・ 議事に先立ち、和泉国土交通省住宅局長よりあいさつがあり、本研究委員会の設立趣意の説明が行われた。
 - (1) 健康維持増進住宅の研究の背景と今後の展望について（資料5・6）
 - ・ 村上委員長より、少子高齢化の進展等による労働市場や社会構造の変化を受けて、生涯健康、生涯現役社会を実現するための新しい住宅／地域モデルとして、健康増進住宅の開発が強く求められている旨、説明が行われた。
 - ・ 本研究委員会の下に幹事会を設置し、当面は以下に示す4つの部会を中心に検討を進めていく旨、説明がなされた。また、各部会の部会長について、以下のとお

り指名がなされた。

1. 健康負荷削減部会（部会長：吉野委員）
2. 健康増進部会（部会長：田辺委員）
3. 設計部会（部会長：小泉委員）
4. 健康コミュニティ推進部会（部会長：伊香賀委員）

（２）健康維持増進住宅の研究活動の展望について（資料 7-1～-4）

- ・ 吉野部会長より、健康負荷削減部会では、健康に関してマイナスの影響要因を建築的、医学的観点から明らかし、それらを排除して健康で快適な環境を実現するための室内環境の基準、トータルシステム、設計手法およびライフスタイル等の提案を行う旨、説明が行われた。
- ・ 田辺部会長より、健康増進部会では、健康に関してのプラス影響要因を建築的、医学的観点から明らかにし、それらに対応する要素技術の開発や新しいコンセプトの住宅に関して研究を行う旨、説明がなされた。
- ・ 小泉部会長より、設計部会では、健康維持増進に関わる要素技術や空間・地域特性を、住宅設計という観点から統合化し、横断的かつ総合的な健康維持増進住宅の設計手法の開発を行う旨、説明が行われた。
- ・ 伊香賀部会長より、健康コミュニティ推進部会では、健康維持増進住宅の普及によってもたらされる健康コミュニティの諸効果の中長期評価手法を開発し、健康コミュニティの都市部モデルと中山間地域モデルを提案する旨、説明がなされた。
- ・ 各部会においては、時間スケール（設計、施工、運用、改修、解体、廃棄）と空間スケール（建築物、設備、機器）の両方の視点を意識して研究を推進し、各部会の成果は、将来的には CASBEE（建築物の総合環境性能評価システム）のような評価ツールに組み込んでいくことを念頭に置くとの説明がなされた。
- ・ 各部会の構成員は、各委員の意向を踏まえて調整する。参加を希望する部会がある場合には、各委員からその旨事務局に連絡することとなった。

（３）フリーディスカッション【主な意見】

- ・ 住宅の耐震化、断熱化等は、研究開発の水準はかなり高いが、その普及は思うように進んでいない。本研究を推進するうえでも、研究開発と併せていかに普及させるかという視点が重要である。普及方策を検討する部会を設置することも検討すべき。
- ・ 設計部会の成果としての健康維持増進住宅の設計手法は、汎用性を持たせることが重要である。波及効果のある事例を可視化すべき。
- ・ 人間は、オフィスや学校など住宅以外の場所で過ごす時間も長いことから、そこまで含めて考えるべき。

- ・ 我が国において、木材は大変重要な建築資材であるが、木材が人間の健康にどのような影響を与えるか等、エビデンスに基づいた評価を行うことで、木材の良さを見直すことができるとよい。
- ・ 個人や地域によって、求められる健康増進住宅は異なることから、個別性、地域性という視点が重要である。
- ・ 4つの部会で取り上げる研究テーマは、部会ごとに学術的な研究レベル・進捗度に大きな差があり、到達点は違いうる。
- ・ 本研究は、世界的にも例のない、先導的な取り組みである。

(4) 今後の進め方について（資料8）

- ・ 本研究は、本年度を含め3カ年計画で進めていく。
- ・ 各部会の進捗状況の報告を目的とした委員会を年内に1回、本年度の成果報告を目的とした委員会を年度末に1回開催する予定。
- ・ 今年度の成果としては、来年度以降の研究の方向性を決定する。

6 まとめ(結論)

- ・ 「健康負荷削減部会」(吉野部会長)、「健康増進部会」(田辺部会長)、「設計部会」(小泉部会長)、「健康コミュニティ推進部会」(伊香賀部会長)の4つの部会を設置し、今後の研究を進めていく。
- ・ 各部会への参画希望については、事務局へ連絡する。

以上